



百 誹 諧 九
 都 鄙 歲 且
 大 三 物 次 弟
 不 同
 諸 國 引 付

~ 5
 6707
 2





5
06707
2

九月風上

<2015-16>

元且

唯花堂

眺山

折人只象^リ三根^カの^山の^望
あゝこれ^鏡山^の神^子の^屋吾^神
春^の山^窓乃^鏡小^湖照^りて^秋翠

同

風俗

山^毎垣^や花^陸の^教婦^り道^山
終^業に^榮る^丹頂^乃志^を冬^柳
権^る暈^ハ海^の俯^にく^樹十

同

カサ

長^とお^の礼^や西^針の^を桃^原
卯^杖の^あと^ふ代^れ神^坂旭^多
本^膳に^風の^常婦^りさ^けあ^まま^時

聖節

い^つや^と釣^目は^花の^乙見^丸秋^翠
川^去や^新り^しは^花花^吾神



明のやまの朔日人乃道 音輔
月信 やまに初中り翁を丈 断十
初雪やゆきと神に英女義男 旭水
よみ水の花はよるたや上七社 峯柳
多れとや電仙人の松 曾之

韶光

音助堂

木葉れまゝやむの斧れき 林森
白の雪めて鏡あ 翠の色 好去
初門や回し初のくさ 赤菱 暉紋
落葉や一細ちのてよも 碧芽 晓水
あゝ雪の屋結くれ玉草虫 暮空
荒磯やきれよ 赤波目の船 習文

歳尾

年々今日況て海久と又車 民志
つとむの雨鈴とたう 盈科
錦糸れ人や師走の花さう 郁唇
郷一むい^スき津れ血もさ 晩山

歳尾

三冬立を江丹波の市乃籠 秋華
世やみ所び一籠はやの久 ぬ妻
大雪れ木の葉かきや年の袖 道山
朝の雲結くも霞の長長海老 吾孫
とと雪や流もはるる言 貝 花輝
ららの肉ふ梅のちの唾増おが 呪多
一枚れ室のふや海や新奥渡 雪夕
るの月や波もくゆるまの葉 断十
おちり ちや柿の一すやこれ株 冬折
裏和田の鱸たおや年の影 旭水
白木樵矢背や雲舟の御程文 萱秋
雪れえ飽たもな 味の味 幸夕
菱系やまを陸の二節 茶 桃吹

元旦

清雅羨の松山開の山城や 長雄
神りや吾れ乃れ此れ猿田 果山
老不止よはせとと知る笑を 綴志

歳暮

計ラ歳ヲ驚シ添ラ歳ヲ思ハ花ヲ喜シ入ラ春ニ
光陰 今日日急 詩酒莫禁人
餅搗や石凝那の玉流 綴志

か名を社詣北おろそなハ
鼎の石砂より一て 而笑堂

表約や不破のふ彼及金屏風
小栗中の後や一月の法の法の法の
常行や三十日の年を流鼓 善四
般特も怪不年やの嗟の嗟の嗟の

嗟の嗟の嗟の引付

元旦

江原彦根

不ト

さの一の花の百の卷のくのわのはの伽の羅ののの糸の

笑の大の婦のくのにの茶の釜ののの流の 全

旅の支の度の處ののの夜の屋のをのいのれのて 全

献の巻の

日向岩根

いのせの海の老ののの朱のをの奪のや 編の中の云の 如のは

蓬の菜のはの益の掛の一の橋の 全

くののの領の巾ののの袖のものまのはのはのく 全

炸和

日向岩根

若の水のハの子のをの昔のふのちのりのくのくの 白水

鈴の葉のはのひのをのたのぐのるの楊の柳の 全

常のはの少ののの自の溜ののの前の出の事の 全

同

日所

東君の沙羅四條のちあさり 夏由
金衣く初音白より大和窓 長集

歳未

て秤の風声もよし年の名 夏由
耳きく針の音より 芳不ト

正朔

丹後之序

昔日にみ開きり 年の名 岐山

酒に酔りて人のいせ海老 五

双調の笛にやうのををり 五

日

日所

花をきき日暮や 四月お 我眠

五

丹波之序

木海に今般五の勢を銀の井戸 文柳

築木地はゆくり 志あき 五

雉子のまよひつゝ 岩何も 巻りして 五

山引付

四方并初まはり 雑者か 地光

此尾 貪者の餘形職乃
人今向て

借り方(来字)の流いゝ大晦日也 吾

如東大慈を今也
たすりて

海にゆりては 坊さよ年の名 鼻凡

穂俵やけの笑小 羅ふ山 中者 凡

跌れをまされ 金れを

何よりたし

年の名も我も 勢を縮こし 王 正吟

樹怪の及たよなふ 臍を 地光

全詠

人玉羽子 師乞の喜れ山ぢりり 蘭水
みものやり甲の氣味そ細の籠 全

歳旦

有乳山中

大着ハ走ぢぬ門の乳房が 冬忠

冬雜

小陸や濁の尻より喜ハ階 全

始和

竹田氏

濁釜や笑顔難ふ今朝のそ 賀

炸炸と七人の御よ 難旦 全

初衣裳島の幕よ 忌座 全

全

八幡伝

初空の日和と揚り 穉長が 土取

と此年頃の御ん、と此の

清きのあるとまゆるハ瓜本と指
のめあくとや 浅み虫の御乃
わいよがに乃ハ此わさの
産みに又万本と

清きサこれの山人

韶光

春新の角を白乃 始りね 塞龍

同

幾の葉は空諫鼓此葉の狩柳等
且つれ目のと先初乃 穉長加計

あまのつとみはたせ清代のよき柳
しづかやゆづり垣の縁書景不識
一のふや謎の聚度度散竹蕭
若水にらのあまを冠うれ孤遊

年曰立春 塞翁

ゆくふを抄う抄う立處
聖に似て誰と睡を吐源走か不識
男の敵あふやあはる寂男柳帯
百花待木のつゆや燦拂孤遊
三神にだてあつらん弁笑指お柳
ま待や弟のこれてとの音 唸花

晩山引付

元日

寺田邑

井田氏

山を歩ん今やいふ今朝のま
いつきの枝と花生の木毎 全

音金の夢もけふあまの 全

歳暮

我よ一株の冬をほひはもして
えらりとれと成る節操どりて
こわすんをせ年牧らむを道よ
わねるしづかやゆづり垣の縁書景不識
人のいづく都をさうぬ辺り
葉を高くつら新高く極く
都鄙は名くく一木をまほく

のたげ人も足をくくぬき躰
地ををいししひ仕家のま
乃内よもかきりえをよる
ひりよや承りしそれら花や
あけいまはひをあらそん
何〜〇〜わられんわん人も
とも平〜赤羽のみとう立ま
貴せまた〜さ方りやとそふ
の

井田姓

師老も好まぬ春の月ぬり哉

歳笈

上坂本

積年の垢ハ刃子初りか〜自ん哉 白梅子

海山も海江居士 初日哉 山中 不残

と年尾

さいふ名机子 眠る小睡日 全

蛇心引付

元日

荒木姓

赤玉をよに取龍千生れ立一無

星たぐり歩千車や〜 女菱秋

播粟や翁の面の稚一育 幸夕

ぬり歩守小竹筒垢や春春示 富九

元日そきろ〜ハ千代のまかり 弗子

追命や度初りや岩山 虎鏡

初山の川も守らう銀千張 義陳

大ぬち一け〜よ立湯の鏡い乙通

神ハ頭云々若けり 報者哉 晚水

元日や江岸をたもと本二の人 且静

歳未

大くや服も丈丈に調ぬし通
門をよふ年の尾の古光神 虎後
右曆右へ斤付けむ糸 茨陳
祖母祖父の志例平一十年の 弗子
婿

元旦

岡口や冬の玉生む初日氣石柱
太着ハ老せぬ門の乳房有乳山 癸忠

唾巻の引舟

止且

江沢須敷邑

きそはーぬ我も家家れそみか 黙止
さまぶれのちるき兄の花 政治
晴呼に言多しとをりて 恥名

其二

山本氏

水ひき引ケテ溺の所をみか 止
春日の磨く一挺の楸 然止
去後夜紋々高く生長ケテ 政治

其三

竹内氏

ほろのの神子糸 磨正 左
箒を葉の苗のちるま 恥名
蛙花ノ庭一盞の支度 止

如和

竹内姓

満金や笑顔縁ふ今終のま 如興

炸ハ七人の伽マ 雜目一 全
新衣裳履の幕に居座下 全

年始 ハ懐任
初空の日和を擡ぐ櫓を分 十六夜

セハ月

煉拂存る木履のわづき 落石

酒間 年ル 強 月一迫 恥言

年木樵の聚の日よりぬ 既止

上日 上本 竹兎亭

亥子掛り五穀をりや初礼

立社小須弥の威徳を神 千獅子

石一の千代ヤ万葉 傍るび 裁山

年暮

世活永一田をてはけぬ 竹兎

前分は有るはよりこへ 虎の皮 裁山

啗茶堂引付

酉歳旦

江忍毒系

西山姓

季の君子呼滾々や明の去 堂止

堂志き木毒の 学校 芦舩

笛鼓枵吞一艘のとうりて 全

全

月始 脈ノ 開一 張 月姓 芦舩

筆 當 手ノ 吉一 書 堂止

探出ら富士の麓も 奉き 全

年尾

冬掛の考せ手 楠長者分 全

教十程かき 季々一 年の版 芦舩

元日 初日の花を勺の上よ

栴良

初礼の今朝や言葉の水雷冠 以十

日の輝^キ塵^チ若^ニり玉水 左

花^ハ近^ニく巖^イの首^ノの禮^レあて 左

左

越後三茶

歳^ノ先^ニ一^ノ隙^ハ若^シ水 山下氏 幸^ク吟

山々^ノあ^のの掛^ハ 三ノ 左

雪^ノの声^ハゆる^りも^も子^ノ旅^ノ立^ルく 左

月

若^シ餅^ヲや^ハ祈^ルれ^ルを^ハ家^ノの和^合系 山下氏 幸^ク吟

根^ノ蔓^ニ 門^ノ松^ノ 靴^ヲ 同注 定^メ脚

兼^テ暮

世^ノ中^ハ八^ノ條^ノ因^テ事^シ 年^ノの暮 幸^ク吟

失^レ物^ト 白^ク煤^ト 掃^ク 幸^ク吟

吟花堂引附

酉歳且

洛 秀^ク欵

九重の花^ヲり^テ晏^クや^ハ日^ノの司

五^ノ葉^ノを^ハぬ^きて^ハ笑^ハや^ハ宿^ル此^ノ榮^ニ 幸^ク吟

く^もま^まや^ハ心^ヲも^も野^ノの^ニま^ま 全 幸^ク吟

春^ノと^ハ心^ヲも^も実^ヲも^も女^ノ子^ノの^ニ海^ノの^ニ如^ク 幸^ク吟

梅^ノ香^ヲや^ハ街^ノ衣^ヲに^ハ懐^クを^ハ四^ノ方^ノに^ハ柳^ノ穂

歳暮 イカ

拂^ハた^レた^レら^レれ^ハ縁^ヲや^ハ又^ハ出^ルに^ハ笙^ヲお

末^ノの^ハ十九^ノや^ハ北^ノの^ニま^ま 幸^ク吟

ゆ^りの^ハ名^ヲづ^く何^トと^ハあ^られ^ばい^ふ系^ノ秀^ク欵

九^ノ鬼^ハ内^ノ世^ノと^ハね^られ^ばや^ハ外^ノの^ニ声^ヲ泉^ノ山

野^ノや^ハく^く空^ヲり^テ送^ル年^ノの^ニ市^ノ 可^ク謹

元日

丹塔山

栴や緋ゴキメふきしとさう此春泉山

海老の値ふかち栗の式全

栄あり此者七巻子居りて全

同 目所

宝玉の光るもや初目水案

梅の香りも子里同風全

中引後ふ山も多のうりて全

同 但出石

門松や智此取をの以竹の勢可謹

致貴し人此取乃子全

古庭立山名草冷の息折ん全

自云 隆礼

盤持も恒ふ年ハ堂えあり

晩山引付

丁酉聖節

但馬出石

供佛物和木具はま盤の流可者

青襖をは梅の水面全

曉雲五風柳千梯入き下空

成尾

六心を落し糸の掃束しを

感してさをは履ぬぎを

浮赤身ハ師乞の唇の集々寺の名

歳旦

日國丸

掃白や赤ま代乃鈴柳き可限

餅の境よりいふ扇の全
人の氣もその芽立は清きし 全

と年尾

今朝の昔も色いふ一年の昔 全

一五三粒の個やかさり縄可又
日如石

餘もを勝て梅のちよは 全

巢をさぶるも朝日は 全

陽ぬおも竹のまや年の昔 全

いひ引付

試毫 かろは筒の節を破り
海よりいひ引付

奥は侍

手初や花の繁り硯海波 乳翁

屠蘇の頭と押す五六人 蘭水

移徒と傍ふ袴忌夜侍下 世音

同

神代不知ぬ唱ぬ今朝のま 全

よこはい牛もあさりの院 翁

花の心も笛と太鼓下 水

廻国同境界

春子登し日本半か添て後 蘭水

梅放釣遺窓 乳翁

苗代馬料一理 正吟

止し且

大くく肩衣横すし法せよ

全

腋カ門く腋赤塩毒

也音

腕月やり白の仇よ掉きし

草凡

左

一滴のとうや三百九十俵

全

流きと義之に怪の上斗

三音

雛衣の角岩徒前子よ送て

乳音

左

曙や津まの脹ろ

司卯

とうの向んすし二尺七寸

全

陽穿の鞆虎の尾と

全

元且

金茂

力花の種を極るくくはま

百千鳥より何より献立 巻

長閑な名深小袖よ入も出て 貴

試筆

百丸

常いふくくはまの和

人のまめく肩衣は角 金茂

真草の小荷結糸無腰しん 巨海

試觚

本卦を以て

巨海

六十余を八十の三十九に云

こころい始よと心浦く 之白

取居取けられたる凡和て 覓

試翰

之白

うらまをさうら春のわさより

日枝を枕しそふく鷄 百九

紙鸞涙も付しくさうりく 水色

試毫

水色

梅ゆき袖壁清し繪の云

うらたれた舞ひよ入る鳥 巨海

五丁去年より富士のせられ 金茂

果且

澆花

三方や人の造て屠蕪れ禮

花の雲波し朝日や柳ありし 江戸麻布 芒月

とまひたから道よ恵や福壽草 同 意睡

荒向人悦歌や鏡餅 同 戦城

年内立春

去はは心くさる霞心の内

鬼貫

紫書

松崎や日比こころく愛服 百丸

志成湯とこころく御餅の客 之白

くれりや金高通る年北水 水色

十徳の常こころくや紫の書 之腫

ま道く皆新めて松用念 蟻坂

書出くや通る覚候の位廻り 金茂

丁酉おと

吐工軒

元日

景排

羽子板の給ひに儀長下見哉

節ゆきまに梅ふ孫彦 戀誰

こゝろ雪もく室^{ガニ}まうた 充克

其二

吉田氏

充克

礼帳や麻上^{コッリ}下^マ見^ルに白^ク紙^シ

今通るの^マし^レれ^ル人^ハゆ^く 彦排

假梅^ハひ^け初^ハ朝^ハ朝^ハと^ハね^る 志誰

其三

千文舟

意誰

多^クも^カや^リお^もい^し階^ハを^ハち^ノ月^ハ

え^んと^宗り^り海^老所^ハ毎^ハ盛^ル 充克

糸^ハ山^ハく^規矩^ハ準^レ繩^ハり^糸の^環の^環 彦排

きんこ

川付

氏神をすくはせしめ元夜に景峽
初すくはせしめ元夜に景峽
陽春に去るに多し福の神八陸
任運りしや元夜に又は八子

舞音

鳥籠

おぼろげなともたれ

さしや

糸柳

降る高はるおのよき酒

イワヤ
鳥籠

享保二廿日

門松や哥よし引な花枕

吾神

嵐も去る元日の指 青箱

夕露の氷午の月も奥待て 晩山

大歳

太巻や包久千早子及まぐ

吾神

せいじ

あゝぬ名のちりも 移り御を我 正宣

動るぬや年を市あり 今午のま 郁摩

す掃や牡丹よあり くる夜 悦水

り年やさのふのまゝ 留あり 青夕

春はや草のユをてせの音 晩山

草花二首

一平おくら 所の風

立春

牡丹 林

胡

月よりや花の朝日人の道

青補

守せ

夕きくひ曆も未よ成にたり 言水

山菜の若ふ若たり餅の香 青輔

人歌の爰をわらむや年の原 香か

夜う鶴の思より年の始未ぞ 音神

これの契

財系の人や師老の花曇 郁磨

燦ときや牡丹よ樹し夜 況水

柳一本はつき神の血もかり 晚山

享保二歳旦

林花堂

雪夕

荒磯やきのふお波日の始

まねよりり子代のち著 思丈

家振芽作園よ茶屋建下 晚山

曰

浴神の縁しし流や傍葉 思丈

大肌ぬいでま初めの靴カ 雪夕

染入す尾上の契まの香よ 青輔

曰

東君の才くたり蒼夷人 全

去はあちちの菰の灯明 景山

我朝の蛙ハ唐よ声揚下 雪

歳末

獅一本佐^手神の血を^か 喰^吞
 花杏^く大津^は袋の^臍一^采 吾^神
 若^好井の^りの^{いつ}こ^大抜 里^东
 年の^段よ^{せて}揚^屋の^解そ^乙 雷^姉
 戸^は衣^の角^お出^せ命^の夏 荒^菰
 ち^り守^り巾^巾羽^ふ小^晦日 思^丈
 波^泥の^波も^取ぬ^師を^か 方^之
 餅^つや^布ち^おり^下流^ひは 考^急
 味^掃や^白八^基石^の巾^巾衣 一^池
 一^牧の^宝の^舟や^海老^さこ^の 夏

歳始

世^のま^や三^ツの^且を^玉帚^一 里^东
 腋^取之^拍も^矯一^千代^の衣 雷^姉
 拍^午に^年八^越と^そ削^掛 草^亦
 い^ね上^てま^のひ^の雛^を尋^り 方^之
 一^万歳^丁酉^丁と^松へ^栎の^植 荒^菰
 初^夏の^森耳^よ水^や金^を山 考^急
 初^空や^森花^乃の^様田^彦 果^山
 初^空や^森花^乃の^様田^彦 果^山

年尾

三冬左近江丹波の市の旗 秋葉
勤ふぬや年の市あり命下の笠 郁麿
大佛の空ハ餅も星々う那 青補
馬の尾や波りてゆえう年の采 断十
おり立や楠の二寸年の株 岑柗
この和田の繕くはばや年の滝 旭水
丸々れハ飽どうもれーの味 幸夕
年木推ハ樹やの井のは狂文 幸秋
菱系やまを隣のとあり采 柳陰
大徳の木の葉ゆやうの社 出山
餘貞
ゆりくやキニヤウくのまきあめ 幸夕

享保二歳旦

西山藤

ほろ菜や一鉢を称て蓬の芽

悦水

雞も信我初奇の門 青補

籠江の岸と春の採り 吾神

二

陶雲舎

初筆や勃む有馬院 限き士

春より雷の系水と引 悦水

浦々のま云子帰りの果毛か 青補

三

笹乃室

仇階の天王もあり 百十巻 全

まきくやまぬ賣初の後 音神

新ニまの巻の男ヲ破クせて悦水

全廻文

年ハ流ハ流ハ流ハ年ハ 道山

年尾

柳ハ一本ハ依ル神ノ血ニ我レ 晚山

木々の冬ヲ去リ振テ居ル青ク

人や呼ビ龍ノ後ハ年ノ岐ハ 吾神

財ノ系ノ人ヲ師ト是ノ花ニ 郁磨

余自ハ

廣沢ノ水

芦ノ葉乃氏乃 悦水

暹アんぬキ多キナリ

享保二のと

元旦

瓜木晚山門人

道山

富垣ハ花ハ花ハ身ノ都ハ 凡ハ俗ハ

浪キ此レ棹ハ帆ハ去リ去リ 船流

傘ハ人ハ陰ハ佐陽ノ去リ 寛流

同

偃ハ三ツ津ノ梅ハ初ハ乾ハ 全

年ノ睦ハ袖ハ毎ハのハ玉ハ 道山

丁々とハ繪ノ具ハ乃ハ鑿ハ長ハ保ハ 胡流

同

裏ハ公ハ天ハ保ハ祖ハのハ換ハ 全

福引くハちハ萩ハ年ノのハ繩ハ 如俵

強飯はハ能ハ千ハ本ハ煎ハ床ハ 道山

試毫

い下今新日月の花れし見丸 柳葉
備若し年の司り鏡岩 船流
神馬藻の香より存ノ花の枝 如俊

守業

大尊の木の葉よりや年の袖 道山
行の長待も院のひも多むい 音神
忘りやとくの笹代の鴉遊盃 郁鷹
大佛の空を餅花曇りかす 青神
かよ拂るる納ふ宮りりれ 寛流
附やそれ師をの店れ出雲市 胡流
天秤の蒼たの 和年の廻 如依
山焼よ年の鏡の車一板 船流
斧折す自髪もよ寸腕が 長雄
獅一本侍つる神 山
の血りれ 山

慶鶴堂

享保二の

雞旦

大福や梅の青浪雞波々々 一カ虎

胡日初九自然天 然つ 巴丸

弥生山せり初るる人群て 意進

其二

たおや女の出る所 階や太初月

屋札窮ふ竹のこもひ 夢 万虎

空禮の忘き鏡もひ 破丁 巴丸

其三

賢聖のわいふとる川 三ツ朝 巴丸

無障 祇

沉醉ハせぬ 椒栢ノ酒 意誰

春凡小庵の敷も声そけく 万虎

夕暮

夕きくひ曆十寸唐子成山より言水
老をゆすゆふ恥し餅の客之白
矢し浪し鳴戸の水雞年一夜暮四
石榴の文字あらく曆 弔 翠舟
獅一本寸むへき神の皿と哉晚山

五

書出くやくくく言よ松の若万虎
節くぬ年市の市あり金下の星巴丸
栢棹^{ツルム}ききふれくく年のも意誰

享保ころのやし

元旦

活潑堂

必^ス有^リ方^ハ年^ノ徳

雲卧

花れききも先うけの枝

唯然

時哉山 莞^ニ尔^ニ

百子

全

百子

照^ス殿^ノ髭^ヲ鏡^ニ餅

彩^ニ鳳^ノ尾^ヲ重^ニ肴

雲卧

生^ス又^ハい^ハる^者の綿^ヲと謔^ス

唯然

全

唯然

一和^ラ其^ノ光^ヲ福^ヲ藁

橋不智魚河の魚舟ワノ和 百千
國人乃後つみ赤まも来々 雲那
喜陽
奥のいさ海をふもふ河り 睦月 幽谷

歳暮

焚きくし曆もすへふりふり言泉
紳一本指へき絆のきくもりよ 晩山
をかくすゆふねよりのたの之白
忘るやの残ふあふむ並 郁齋
煤のくあひの屋計とくれふり一思

林世の太士立里男
童女小次すやいふ

餅花や子共れ並い色とひく雪目
九字や教山元と年もくふ唯然

鯽有羽子 年市 夏子

享保二丁る年

歳暮

さめりと掃宅まきやゆきなる 川上

山泉と

あまのあまを立ッやと船は春川上

同

慶長の令にや々ふのま布粉

にたがれらるこれけりやと船の 伏見傍 雪庭

牛ぬいよ折用細きよ 船か 白井 武明

京寺町通二条上町
誹諧二物所并筒屋庄兵衛板

カ

